
東京都微生物検査情報

MONTHLY MICROBIOLOGICAL TESTS REPORT, TOKYO

第 38 卷 第 10 号
2017 年 10 月号
月 報



東京都健康安全研究センター

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>

ISSN 1883-2636

平成28年の食中毒発生状況

平成28年に全国および東京都内で発生した食中毒事件の概要と特徴について、厚生労働省医薬・生活衛生局食品監視安全課並びに東京都福祉保健局健康安全部の資料に基づいて紹介する。

1. 全国における食中毒発生状況

食中毒事件の総数は1,139件、患者数は20,252名（死者数14名）であり、事件数は前年比0.95、患者数は前年比0.89であった。そのうち、原因物質不明は27件（2.4%）、患者数322名（1.6%）であった。

事件数を原因物質別に見ると、細菌性食中毒は480件（42.1%）、前年比1.11でやや増加した。原因菌別の第1位は平成15年以降14年連続でカンピロバクター339件（29.8%）、以下、黄色ブドウ球菌36件（3.2%）、サルモネラ31件（2.7%）、ウエルシュ菌31件（2.7%）、腸管出血性大腸菌14件（1.2%）、腸炎ビブリオ12件（1.1%）、セレウス菌9件（0.8%）、腸管出血性大腸菌以外の大腸菌6件（0.5%）、エルシニア・エンテロコリチカ1件（0.1%）、その他の細菌が1件（0.1%）であった。その他の細菌1事例は「ブロッコリーのおかか和え」を原因食品とする溶血性レンサ球菌によるものであった。

細菌性食中毒の患者数は7,483名（36.9%）、前年比1.24でやや増加した。患者数の多い原因菌は、カンピロバクター3,272名、次いでウエルシュ菌1,411名であった。1事件あたり患者数500名以上の大規模食中毒は4月に1件東京都（江東区）で発生しており、ゴールデンウィーク中に開催された肉料理のイベントで提供された「鶏ささみ寿司」を原因食品とするカンピロバクターによるもので、患者数は609名であった。このイベントは福岡でも開催されており「鶏ささみ寿司」および「鶏むね肉のたたき寿司」を喫食した人からカンピロバクターが検出し、患者数は266名であった。

また、広域的な集団食中毒事例として、冷凍メンチカツ（そうざい半製品）を原因食品とした腸管出血性大腸菌O157による事例が発生し、患者は1都5県で67名に及んだ。当該製品を家庭で調理し、加熱不足の状態で喫食した可能性がある患者も確認されていることから、厚生労働省および

消費者庁は、各自治体や関係する食品団体に「加熱調理を前提とした食品による食中毒の予防について」（生食監発1128第1号、消食表第745号 平成28年11月28日）を通知した。

一方、ノロウイルスによる食中毒は事件数354件（31.1%）、患者数11,397名（56.3%）と最も多かったが、前年比は事件数0.74、患者数0.77と減少した。1事件あたり患者数500名以上の大規模食中毒は1件、京都府で11月に発生した旅館の食事を原因とした患者579名の事件であった。

平成25年より食中毒病因物質の種別に追加されたアニサキスは124件（10.9%）、クドアは22件（1.9%）であった。化学物質による食中毒は17件（1.5%）、植物性自然毒は77件（6.8%）、動物性自然毒は32件（2.8%）であった。その他の3件はノロウイルス及びカンピロバクター、サルモネラ及びノロウイルスというように病因物質が複数検出された事例であった。

食中毒による死者数は前年より8名増加して14名であったが、そのうち10名は腸管出血性大腸菌O157によるものであった。千葉県と東京都の同系列の老人ホーム2施設で発生した「きゅうりのゆかり和え」を原因食品とする食中毒で各施設それぞれ5名の入居者が亡くなった。他の4名は植物性自然毒（イヌサフラン2名、スイセン1名、トリカブト1名）によるものであった。

2. 東京都における食中毒発生状況

都内の食中毒発生状況は、事件数136件（患者数2,309名）であり、平成27年の事件数149件（患者数2,258名）と比べ、事件数は0.91で減少、患者数は1.02でやや増加した。食中毒136件中、細菌によるものは55件（40.4%）であった。原因菌ではカンピロバクターが最も多く36件（26.5%）、以下、サルモネラ6件（4.4%）、腸炎ビブリオ、腸管出血性大腸菌、ウエルシュ菌が各4件（2.9%）、黄色ブドウ球菌3件（2.2%）、その他の大腸菌1件（0.7%）であった。細菌性食中毒の患者数は1,212名（51.3%）、前年比2.28で増加した。患者数では、カンピロバクター796名、次いでウエルシュ菌148名、サルモネラ85名で、患者数100名以上の大規模な事件は前述の通り、「鶏ささみ寿

司」を原因としたカンピロバクターによる事例(患者数 609 名)があった。

ノロウイルスによる食中毒は、事件数 51 件 (37.5%)、患者数 1,069 名 (46.3%) と共に最も多く、前年比は事件数 0.91、患者数 0.68 で、ともに前年より減少した。平成 28 年はノロウイルスによる患者数 100 名以上の大規模な事件は、1 事例 (患者数 150 名) のみで、原因食品は社員食堂で提供されたサラダバーであった。

アニサキスによる食中毒は 21 件 (15.4%) 発生し、前年比 1.62 で増加した。原因食品はしめさばによるものが多かった。クドアによる食中毒の発生は無かった。

化学物質による食中毒は 4 件で全てヒスタミンによるものであった。

植物性自然毒による食中毒は 2 件で、スイセンとチョウセンアサガオによるもの、動物性自然毒による食中毒は 2 件で、貝類のテトラミン (推定も含む) によるものであった。

また、原因物質不明の食中毒は 1 件 (患者数 2 名) あり、飲食店で提供された食事が原因で発生した。

(食品微生物研究科 尾畑 浩魅)

表 1. 平成 28 年の食中毒発生状況

原因物質	全国			東京都		
	事件数 (%)	患者数 (%)	死者数	事件数 (%)	患者数 (%)	死者数
サルモネラ	31 (2.7)	704 (3.5)	—	6 ¹⁾ (4.4)	85 ¹⁾ (3.7)	—
黄色ブドウ球菌	36 (3.2)	698 (3.4)	—	3 (2.2)	26 (1.1)	—
腸炎ビブリオ	12 (1.1)	240 (1.2)	—	4 (2.9)	77 (3.3)	—
腸管出血性大腸菌	14 (1.2)	252 (1.2)	10	4 (2.9)	46 (2.0)	5
その他の病原大腸菌	6 (0.5)	569 (2.8)	—	1 (0.7)	34 (1.5)	—
ウエルシュ菌	31 (2.7)	1,411 (7.0)	—	4 (2.9)	148 (6.4)	—
セレウス菌	9 (0.8)	125 (0.6)	—	— ()	— ()	—
エルシニア・エンテロコリチカ	1 (0.1)	72 (0.4)	—	— ()	— ()	—
カンピロバクター	339 (29.8)	3,272 (16.2)	—	36 ¹⁾ (26.5)	796 ¹⁾ (34.5)	—
その他の細菌	1 (0.1)	140 (0.7)	—	— ()	— ()	—
細菌性総数	480 (42.1)	7,483 (36.9)	10	55 (40.4)	1,212 (51.3)	—
ノロウイルス	354 (31.1)	11,397 (56.3)	—	51 (37.5)	1,069 (46.3)	—
その他のウイルス	2 (0.2)	29 (0.1)	—	— ()	— ()	—
アニサキス	124 (10.9)	126 (0.6)	—	21 (15.4)	21 (0.9)	—
クドア・セブテンブククタータ	22 (1.9)	259 (1.3)	—	— ()	— ()	—
その他の寄生虫	1 (0.1)	21 (0.1)	—	— ()	— ()	—
化学物質	17 (1.5)	297 (1.5)	—	4 (2.9)	26 (1.1)	—
植物性自然毒	77 (6.8)	229 (1.1)	4	2 (1.5)	2 (0.1)	—
動物性自然毒	32 (2.8)	73 (0.4)	—	2 (1.5)	4 (0.2)	—
その他	3 (0.3)	16 (0.1)	—	— ()	— ()	—
原因物質不明	27 (2.4)	322 (1.6)	—	1 (2.7)	2 (0.1)	—
合計	1,139 (100)	20,252 (100)	14	136 (100)	2,309 (100)	5

1) 3 事件 (患者数 27 名) はサルモネラ及びカンピロバクターとの混合感染 (重掲)

表1 病原体搬入・検出状況(4種等)*

2017年10月分

機関名		コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフス A菌	腸管出血性 大腸菌	結核菌
区	千代田区					1	
	中央区						
	港区					2	
	新宿区					3	
	文京区		1				
	台東区					2	
	墨田区						
	江東区						
	品川区					3	
	目黒区						
	大田区					1	2
	世田谷区						2
	渋谷区						
	中野区					2	
	杉並区						
	豊島区					2	
	北区					2	
	荒川区					1	
	板橋区		1			4	1
	練馬区						
足立区					2		
葛飾区					2		
江戸川区					1		
市	町田市					2	
	八王子市					1	
小 計			2			31	5
都	西多摩						1
	多摩立川					7	3
	南多摩						2
	多摩府中						1
	多摩小平					1	
	島しょ						
小 計						8	7
合 計			2			39	12
健康安全研究センター 検出分						10	

*2016年4月より、各保健所から搬入された検体を集計することとした。

表2 検体搬入状況(全数把握対象疾患-五類)*

2017年10月分

	検体数	2017年累計
侵襲性インフルエンザ菌感染症(菌)	2	42
侵襲性髄膜炎菌感染症(菌)	2	7
侵襲性肺炎球菌感染症(菌)	7	109
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(菌)	16	84
播種性クリプトコックス症(菌)	1	15
合計	28	257

※2016年4月(第37巻・第4号)から追加

表3 病原微生物検出状況(食中毒関連)

2017年10月分

	病原体名	検体数	2017年累計
細菌	大腸菌		
	毒素原性		5
	組織侵入性		44
	病原血清型		
	腸管出血性	1	6
	その他・不明		18
	サルモネラ		
	O4		7
	O7	5	9
	その他		
	エルシニア・エンテロコリチカ		3
	腸炎ビブリオ		
	プレジオモナス・シゲロイデス	1	1
	カンピロバクター	17	145
	黄色ブドウ球菌		28
A型ウエルシュ菌	21	63	
ボツリヌス菌		1	
セレウス菌		8	
ウイルス	ノロウイルス(G I)		28
	ノロウイルス(G II)	31	842
	ノロウイルス(G I, G II)		
	ロタウイルス		16
寄生虫	アニサキス	12	42
	クドア		1
合計		88	1267

表4 HIV 検査数及び陽性数

2017年10月分

	男性		女性		性別不明		合計	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
東京都南新宿検査・相談室	708	14	241	0	0	0	949	14
保健所等	215	7	105	0	0	0	320	7
合計	923	21	346	0	0	0	1,269	21
2017年累計	8,415	108	3,155	1	0	0	11,570	109

表5 性感染症検査数及び陽性数

2017年10月分

	梅毒検査		クラミジア遺伝子検査		淋菌遺伝子検査	
	検査数	陽性	検査数	陽性	検査数	陽性
東京都南新宿検査・相談室	578	44	0	0	0	0
保健所等	259	2	236	19	146	0
合計	837	46	236	19	146	0
2017年累計	7,468	435	2,858	148	2,011	4

表6 定点把握疾患別病原体分離状況（ウイルス）

過去3ヶ月

定点種別	対象疾患名	検出病原体	8月	9月	10月	合計	
小児科	咽頭結膜熱	アデノウイルス	2			2	
	手足口病	エンテロウイルス	1	3	2	6	
	RSウイルス感染症	RSウイルス		3		4	7
		アデノウイルス		1			1
		エンテロウイルス		1		1	2
	ヘルパンギーナ	エンテロウイルス	1			1	
	流行性耳下腺炎	ムンプスウイルス	2	2		4	
	不明発疹症	アデノウイルス				1	1
		エンテロウイルス		1	3	1	5
突発性発疹	エンテロウイルス		2	1			
インフルエンザ	インフルエンザ及び インフルエンザ様 疾患 (ILI)	インフルエンザウイルスAH1pdm09	6	3		9	
		インフルエンザウイルスAH3	2	4		6	
		インフルエンザウイルスB型Yamagata系統	2	1	1	4	
基幹	無菌性髄膜炎	エンテロウイルス	1			1	

◆東京都微生物検査情報◆

2017年 11月 27日

編集・発行

東京都健康安全研究センター

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-24-1

TEL:03-3363-3213

FAX:03-5332-7365

S0000786@section.metro.tokyo.jp

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>